

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

25. ナズナ（アブラナ科ナズナ属）

Capsella bursa-pastoris Medicus

2015年3月

田んぼの畔や道ばたによく見られる越年草です。秋に芽生え、冬は地表にへばりつくように生えるロゼット状で越冬し、早春に茎を出し開花します。茎は高さ10～40 cm、地際で分枝し、茎につく葉は基部が矢じり型で茎を抱きます。根出葉は羽状に切れ込み葉柄があります。花は3～5月で総状花序につき、白色で次々に咲かせる無限花序で、先端部ではつぼみを形成し続けます。そのため花序は長く伸び、果実は花軸にややまばらにつくようになります。果実がつく花柄は12～20 mmほどに伸び、先につく果実は逆3角形で先はくぼみ、平たい形で長さ6～7 mm、幅5～6 mmです。日本全土にあり、北半球に広く分布し、姫路市においても田んぼや畑、道ばたに見られます。春の七草のひとつで、かつては冬季の重要な菜っ葉だったようです。別名ペンペン草といい、果実の形が三味線のバチに似ているところから来ています。また、果実を下向きに引っ張って、少し剥がして振るとシャラシャラと音があるので昔の子供は競っておもちゃにしました。薬草でもあり吐血剤や通風、赤痢の薬になりました。



ナズナ全形



伸びた花軸と果実



無限花序